

■阿部次郎 哲学者・美学者。新しい哲学的人生論の書「三太郎の日記」が青年知識層に歓迎され、広く読まれた。

あべじろう

岩倉具視没・1883＝ 山形県飽海郡上郷村大字山寺村(松山町)で、小学校の教師阿部富太郎の次男に生まれる。

8人兄弟のうち4人が大学教員となるような環境に育ち、

帝国憲法発布1889＝ 6歳：

大本教・・・1892＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝11歳：

白馬会・・・1896＝13歳： 荘内中学に入学。級友らと文学を論じ、哲学を志望するようになる。

子規句歌革新1898＝15歳： 父の転任に伴い、山形中学に転校、内村鑑三の諸著、島崎藤村の「若菜集」などを愛読し、文学への興味を覚え、校長の方針に反撥し、

ドイツ統一・・・1990＝17歳： ストライキ起こして退学となり、

田中正造直訴1901＝18歳： 上京して京北中学に編入して卒業。第一高等学校に入学。同級に鳩山秀夫・岩波茂雄・荻原井泉水が、一級下に斎藤茂吉がいる。

日比谷公園・1903＝20歳： 藤村操投身自殺で青年の煩悶激化。『第一高校機関誌(校友会雑誌)の編集に当り、しばしば執筆。

日露戦争始・1904＝21歳： 東大哲学科に進み、ケーベルから深い影響を受け、

日露戦争終・1905＝22歳： 友人の勧めで、豊竹昇太夫の義太夫を熱心に聴き、

満鉄発足・・・1906＝23歳： 歌舞伎に熱中し、中村吉右衛門に入れ込む。『小山内薫らと「帝国文学」の編集にあたり、しばしば執筆。

韓国反日暴動1907＝24歳： 論文「スピノザの本体論」を書いて、東大を卒業し、

伊藤博文暗殺1909＝26歳： 夏目漱石の門に入り、森田草平・小宮豊隆らと親交を結び、

韓国併合・・・1910＝27歳： 『朝日新聞文芸欄』に小論を発表。

大逆事件判決1911＝28歳： 安倍能成らと合著で「影と声」を出版。

明治天皇没・1912＝29歳： 『読売新聞の客員』としてしばしば執筆、「三太郎の日記」の冒頭部も発表。

大正政変・・・1913＝30歳： 慶応大学講師となり、

第一次大戦始1914＝31歳： 結婚。\*『三太郎の日記』を出版した。これは多感な自我の内面的な祐徑と反省を日記体で記録したもので、新しい哲学的人生論の書として青年知識層に歓迎され、広く読まれた。

21ヶ条要求・1915＝32歳： 『三太郎の日記第弐』を出版。安倍能成・上野直昭らとともに岩波書店の「哲学叢書」の編集に加わり、

民本主義・・・1916＝33歳： 日本女子大講師となる。「倫理学の根本問題」(リップス原著)、

ロシア革命・1917＝34歳： 『美学』。『さらに主幹として雑誌「思潮」を主宰、

ベルリン条約・1919＝36歳： 『ニイチェのツァラツストラ解釈並びに批評』。\*この年まで続け、大正期の教養主義・人格主義の思潮を代表する人物の1人と目されるようになった。

原敬首相暗殺1921＝38歳： 『中央公論』誌上で人格主義を展開。『東北帝大教授に就任し、

水平社結成・1922＝39歳： 『人格主義』。『文部省在外研究員としてヨーロッパ留学、

関東大震災・1923＝40歳： \*帰国後、東北帝大に新設の法文学部美学講座の初代教授となり、

護憲三派圧勝1924＝41歳： 仙台に移住。

共産党事件・1928＝45歳：

満州事変・・・1931＝48歳： 「徳川時代の芸術と社会」、

国際連盟脱退1933＝50歳： 「世界文化と日本文化」、

日中戦争始・1937＝54歳：

日米開戦・・・1941＝58歳： 東北帝大法文学部長。上京中、軽度の脳溢血発作にみまわれ、

・・・1942＝59歳： 辞任。快癒後、授業再開。

敗戦・・・1945＝62歳： \*停年退職するまで、23年間、同校で美学を講じた。

新憲法公布・1946＝63歳： 東北帝大名誉教授。

新憲法施行・1947＝64歳： 帝国学士院会員。

極東裁判判決・1948＝65歳： 3人の弟との合著「根芹」出版。

三大事件・・・1949＝66歳： 自宅で日本文化研究会を開く。

独立回復・・・1951＝68歳：

自衛隊発足・1954＝71歳： 仙台に(阿部日本文化研究所)を設立し理事長兼所長となったが、すでに健康がすぐれず、

55年体制始・1955＝72歳：

インスタマン・1958＝75歳： 脳軟化症のため、東大付属病院に入院し、

美智子妃・・・1959＝76歳： 仙台名誉市民に推された後、没した。